

保健体育科

1. 研究について

(1) 令和2年度の研究について

令和2年度の教科研究主題 『自己理解・自己管理能力を高める保健体育指導の実践』

保健体育科の各単元において計画的に実施する話し合い活動において、個々に役割を与える授業を行った。具体的には、話し合いの時間と意見の取りまとめを行う「ファシリテーター」、内容を記録する「記録者」「サブ記録者」、まとまった意見を発表する「発表者」を設定し、課題解決に向けた話し合いを行った。その役割やポジションを果たそうとすることで、自分の意見を伝えることが難しい生徒も仲間のために貢献できたという思いを高められると考えた。また、話し合いや体育分野の活動を工夫することが、自己有用感を高めることができる可能性があることを示唆していると考え、話し合いがさらに充実することで、より効果的な活動を生徒自身が考え、技能の向上につながると考えた。

本研究を実践するにあたり、事前に保健分野の授業や体育分野の話し合いの活動の際に「ファシリテーター」など、役割を決め取り組ませた。

(2) 令和3年度の研究について

令和3年度の教科研究主題

『一人一人が健康の保持増進のための実践力を高める授業づくり

～人間関係形成・社会形成能力の向上を目指して～』

「生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにする」ことを究極の目標にする保健体育科において、キャリア教育と密接に関わる指導内容が体育分野・保健分野で多くある。また、保健体育科を通して育成する健康の保持増進のための実践力や体力は、一人一人のキャリア形成の基盤としても重要である。そこで、昨年度の課題を生かし、保健体育の学習を通じたキャリア教育実戦の中の「人間関係形成・社会形成能力」の育成に重点を置くことにした。

保健分野の健康な生活と疾病の予防の単元では、健康な生活と疾病の予防や喫煙、飲酒、薬物乱用と自分自身の健康の関係について学習する。これらの学習は、自分自身の実生活、実社会の中で生かすことを考えさせていける分野である。話し合い活動やグループ活動を行うことで仲間の個性を認め適切な行動選択をしていくことが現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにしていくことにつながると考えた。

保健分野の授業では、生徒が喫煙や飲酒、薬物乱用が体に及ぼす影響について調べ、GIGAタブを使用して発表スライドを作成し、全体の前で発表を行った。この際、特に意識したことは、生徒一人一人の調べる内容が明確になるように、教師が事前にテーマを小グループに分けたことである。こうすることで、授業のまとめで全体での共有を図る際、各分野での課題だけでなく、場合によっては個人にとって有益になる情報もあることから、より深い学びができるのではないかと考えた。

2. 2年間を通しての成果と課題

(1) 成果

令和2年度に行った車いすバスケットボールの授業では、生徒たちがスムーズに役割を決め、「今日のテーマは車いすバスケットボールだから、バスケットボール部の方がファシリテーターの方がいいね」

という会話が見られた。個々に与えられた役割を果たすことで、話し合いがより深まった。また、話し合いや体育分野の活動を工夫することが、自己有用感を高めることができる可能性があることがわかった（[資料1]を参照）。また、話し合いがさらに充実することで、より効果的な活動を生徒自身が考え、技能の向上につながると考えた。

令和3年度の保健分野における授業での振り返りでは、「年齢を重ねても、健康でいることはとても大切であることが改めてわかった」や「他の発表を聞いて、飲酒そのものがダメなわけではなく、適度な摂取であれば心の健康を保てることを知れた。自分も将来そうしたい」という意見などが挙げられた。他の生徒の意見を聞くことで、これまで生活してきた中で、イメージでしかなかったことを自分の将来に置き換え、適切な行動選択を考えるきっかけになったということがわかった。

また、[表1]から、授業の中で話し合いやグループ活動をすることで、仲間の個性を把握し、一人一人が健康について学ぶ機会につながることがわかった。

[表1] 令和3年度に行った意識調査において肯定的な意見を持った生徒の割合の変容

質問項目	6月	1月
保健体育の学習を通して、体や心には個人差があることを把握していますか。	90%	98%
仲間に対してアドバイスや支援を積極的に行えていますか。	82%	84%

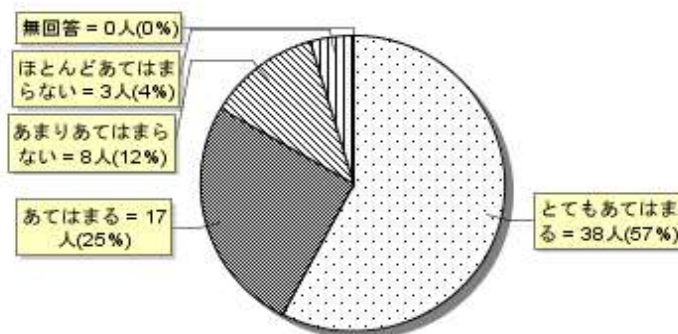
(2) 課題

令和2年度は、自己理解・自己管理能力を高めるために、話し合い活動に力を入れたが、誰かが意見を出した時点でそれ以上考えが深まらないことがあったため、他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを伝えることができるように活動を発展させる必要があると感じた。

各単元の授業を展開していく中で、個人の課題はそれぞれ必ずある。今後は、学習目標を提示するだけでなく個人の課題を明確に把握し、毎授業に臨んでもらう必要があると考える。

来年度は、どうすれば将来の生活を健康で明るく豊かなものにすることができるのかを生徒に考えさせるためにも、保健体育科として課題対応能力をどのように身に付けさせられるかを研究していきたい。

「保健体育の授業の中で、自分には活躍できる場がある」



[資料1] 令和2年度1月に実施した意識調査